

1 単元構想

本単元で身に付けたい力

表現の工夫や効果の違いに着目して読み、作り手の意図や目的を捉える力

言語活動とその特徴

本単元では、中小 T シャツの売り上げに貢献するために、T シャツの良さを伝える広告を作る活動を設定している。T シャツが一枚でも多く売れるように広告を作って、中小 T シャツの良さを伝えるという課題意識を持たせることで、キャッチコピーや写真、色やレイアウトなど、作り手の表現の工夫に着目して読み比べることができると考える。また、誰に向けて作られたものかを推測することで、使われている言葉の意図や目的にも気づくことができるだろう。

教材の特質

本教材は、広告がどのような目的で作られているのか、そのために何が大切か、という説明から始まる。そして、体温計の広告として、家族の健康のために使いやすいことをアピールした広告と子どもの緊急時に使いやすいことをアピールした広告の二種類が提示されている。それぞれの広告に書かれている事柄や言葉、写真は明確に異なり、児童が作り手の意図や目的を捉えていくには適した教材である。

児童の実態

児童は、これまでに説明文において、読み比べを通して表現の工夫を取り取る学習をしてきている。三年生『ほけんだより』を読みくらべようの学習では、同じ目的で書かれているが、取り上げている事柄や説明が異なる二つの文章を読み比べる学習を行った。同じことを伝える文章でも、書き手の意図によって、事柄の取り上げ方や説明の仕方が異なることを理解し、書き手の工夫を見付けながら読むことができるようになってきている。

しかし、2月に行われた標準学力調査の「説明文の内容を読む」項目では、目標値や全国平均を下回っており、事柄の順序などを考えながら内容を読み取ることや目的や必要に応じて文章の内容を整理することには弱さが見られた。言葉の意味を理解させることや文章の中で大事な言葉を押さえながら読んでいく力をつけていかなければならない。

指導観

三年生の同系統の学習『ほけんだより』を読み比べようでは、見出し、文末の呼びかけ、使われているイラストや図表に着目して読み比べを行い、書き手の目的や意図を捉える力を付けてきた。本単元では、写真やキャッチコピーといった要素が加わり、相手に応じた表現の工夫やその効果についてさらに考えを深めていく。

広告を読み比べる際には、言葉の使い方や順序、使われている写真などに着目して比較させ、表現の工夫やその効果が作り手の意図や目的に合っているのかを考えさせていく。また、自分が作り手として、意図や目的に合った表現の工夫を考えさせていく中で学んだことを深めさせていきたい。本系統では更に、五年生で新聞、六年生でインターネットの文章で読み比べを行う。実生活に役立つ様々な種類の文章に触れることで生きて働く言葉の力を身に付けることができると考える。

2 単元の目標及び評価規準

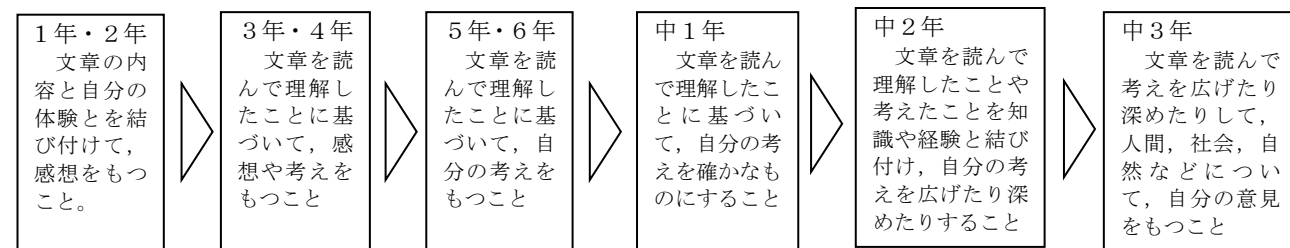
(1) 単元の目標

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うことができる。(2)イ	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持つことができる。Cオ	言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養うことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。(2)イ	「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えを持っている。Cオ	進んで、広告を読み比べ、表し方の違いを読み取り、作り手の意図や目的を考えようとしている。特に、広告がどんな人に向けて作られたものかを推測し、読み比べようとしている。

3 資質・能力の系統

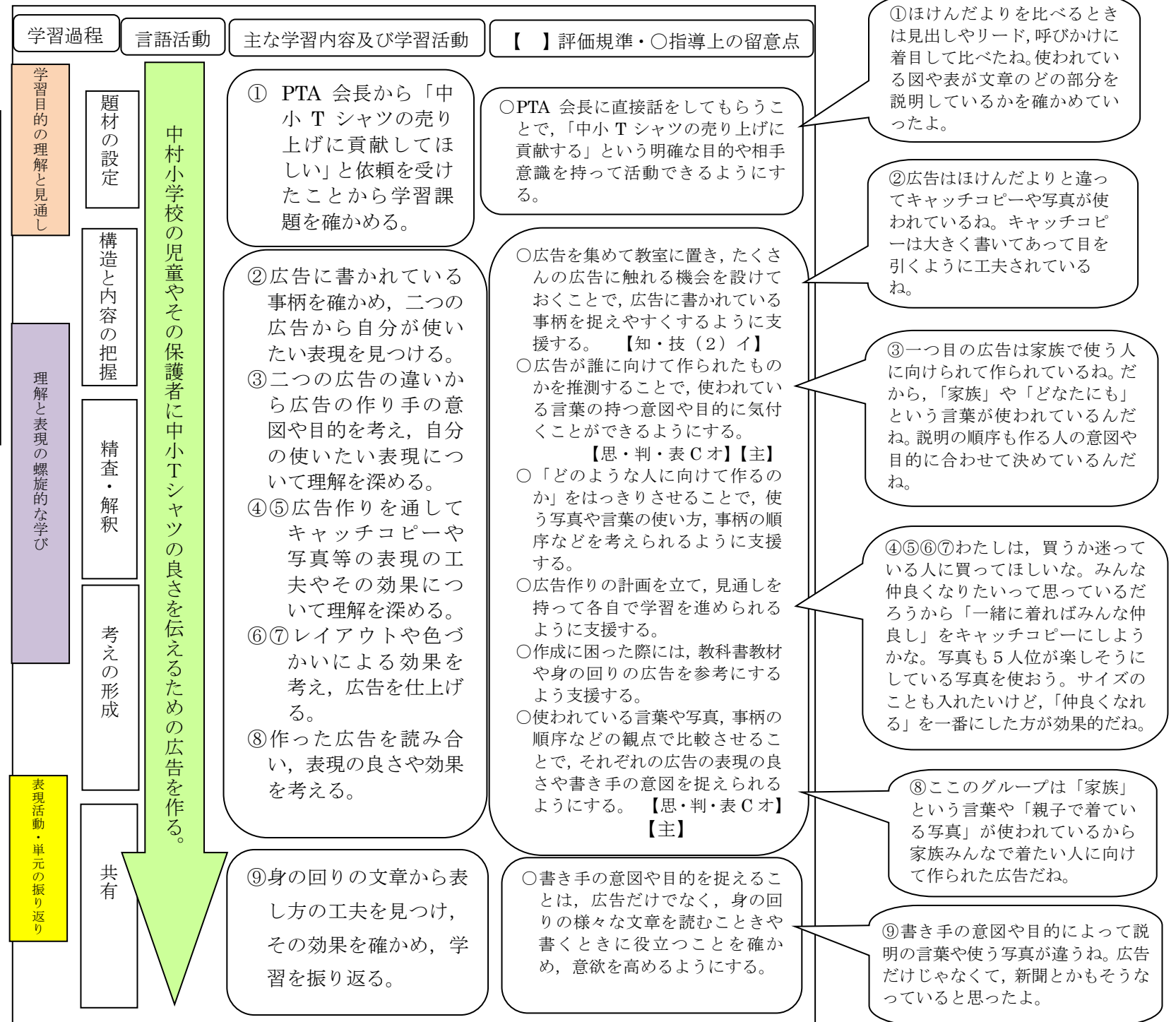


4 研究主題に迫る手立て

研究主題：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり  
—各教科における見方・考え方を働かせて—

- 「中小 T シャツの売り上げに貢献するために中村小学校の児童や保護者に向けて広告を作る」という明確な目的意識や相手意識を持たせることで、広告を読み比べる必要性を感じながら学習を進めることができるようにする。
- 単元を通して、表現の工夫や効果の違いに着目させ、その表現の工夫が作り手の意図や目的に合っているのかを考えさせることで相手に応じた表現の工夫やその効果について理解を深められるようにする。

5 学習の流れ



言葉による見方・考え方を働かせた姿

本単元終了時の目指す児童の姿  
○身の回りの広告等の文章に興味を持ち、書き手の表現の工夫やその効果から書き手の意図や目的を捉えながら読む姿

6 本時の学習 (8/9 時間)

(1) 目標

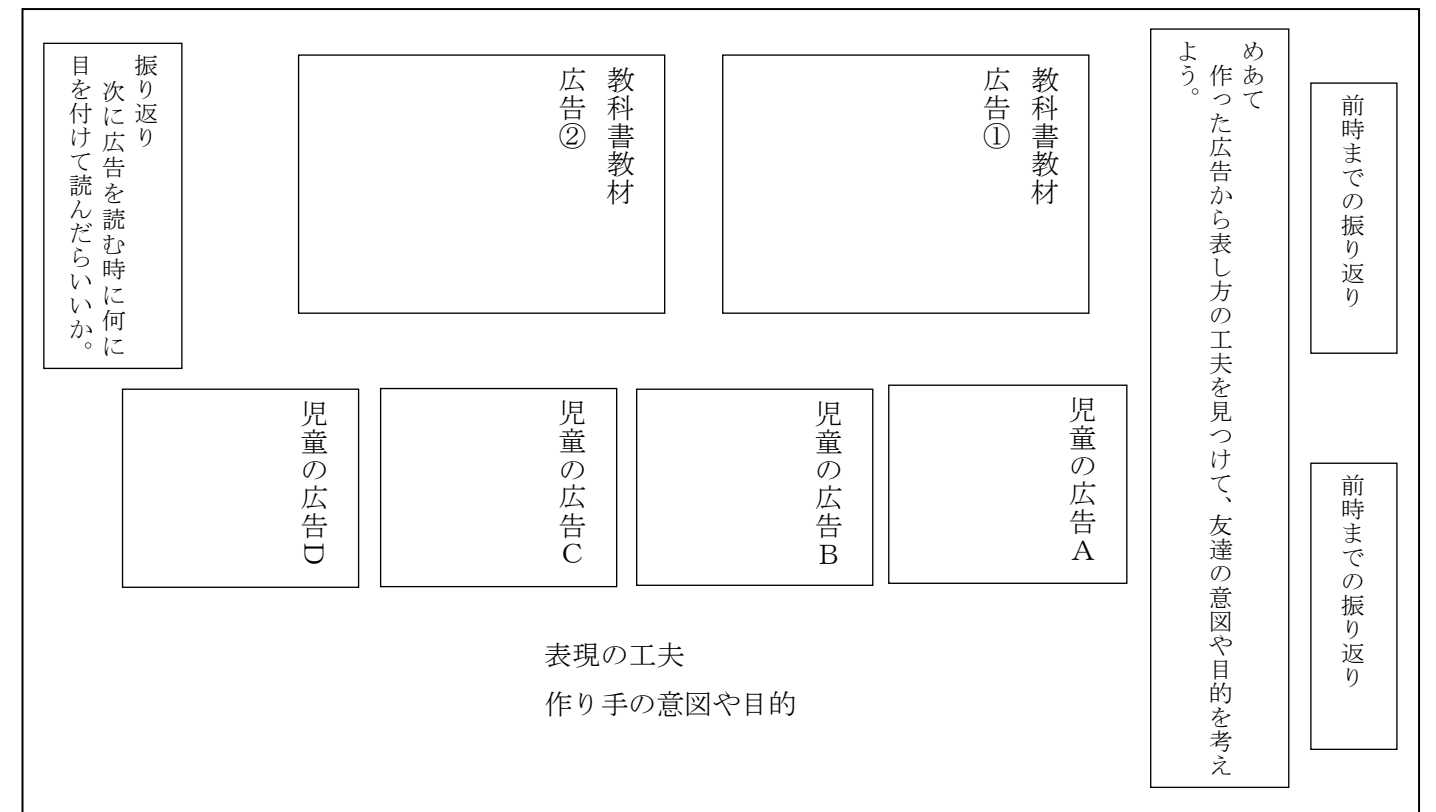
作った広告を読み比べ、表現の工夫の違いやその効果から書き手の意図や目的を考察することができる。

(2) 展開

	学習活動 及び学習内容	主な発問等 (○) 予想される児童の反応 (・)	指導上の留意点 (●) 評価規準及び評価方法 (☆)
導入	1. 今までの学習を想起する。	・自分の広告ができた。上手にできたから自信があるよ。他の人の広告も見たいな。	●自分の作った広告と前時に書いた振り返り(広告を作るときに工夫したこと)を各自で読み返し、本時の学習への意欲を高める。
展開	めあて 作った広告から表し方の工夫を見つけて、友達の意図や目的を考えよう。		
	2. 自分の広告と他のグループの広告を比べて読み、表現の工夫を見つける。(個人・グループ)	○他の人が作った広告と自分が作った広告を比べてみよう。 気が付いたことはあるかな。 ・Aさんの広告は使っている写真や言葉が私と全く違うね。私は大人に着てほしいと思って書いたけどAさんは子どもに着てほしいと思って書いているね。 ・この広告は、先生に向けて書いているね。私は今年来た先生に向けて書いたけど、Dさんは前からいた先生に向けて書いたのかな。使っている言葉が違うね。	●キャッチコピーや写真の違いなどから、それぞれの表現を選んだ意図や目的(どんな人に向けて作られているか)について考えさせるようにする。 ●感想は付箋に残すように指示し、自由に他の人の広告を見られる環境を整える。 ●どの表現のどういう点に、作り手の意図や目的が表れているか考えたことを発表させるようにする。
	3. 書き手の意図とそれに合った表現の工夫について交流する。(全体)	○見つけた表現から、書いた人の意図とその証拠になるところを見つけましょう。 ・Aさんは、中村小のお父さんやお母さんに「子どもに着せたい」としてもらえるように、学校行事のことを書いたり、何人かがお揃いで着ている写真を使ったりしているんだね。 ○そこから、書いた人のどんなメッセージが伝わってきた? ・「中村小のみんなが中小Tシャツを着ることもっとなかよくなってほしい」ということかな。 ○どこからそう思いましたか。 ・一人の写真じゃなく何人かで着ている写真だから、「なかよく着てね。」っていう気持ちだと思う。 ・「一緒に着ると、もうなかよし。」って書いているから仲良くなってほしいのだと思う。 ・それなら、Bさんの広告も、キャッチコピーの言葉やみんなで作っている写真から「PTAのお母さんたちに、中小Tシャツを着てみんなで行事に参加してほしい。」という気持ちで作ったことがわかるよ。特に、この「一緒に着れば心も一つ!」のところが相手の心に届く言葉だと思った。 ・Cさんは、相手が困っていることをよく想像しているね。「暑がり汗をいっぱいかく人」に向けて「汗をかいてもすぐかわく」「風通しがよくすずしい」というよさを短い説明に入れているから、きっと買いたくなるね。「暑がりのあなたにぴったり!」という言葉にも目が行くと思うな。	●広告に使われている表現の違いは、広告の作り手の意図や目的の違いによることを押さえさせる。
	4. 書き手の意図やメッセージを見つける視点で、再度友達の広告を読む。(個人)	○書き手のメッセージや表現の工夫を探しながら、まだ読んでいない広告を読んでみよう。 ・この広告の書き手の意図は何だろう。読み手にどんなことを伝えたいのだろう。 ・この広告のメッセージは…	☆作った広告を読み比べ、表現の工夫の違いやその効果から書き手の意図や目的を考察している。 【思・判・表Cオ】 (発言・付箋・ノート) ☆進んで広告がどんな人に向けて作られたものか推測し、読み比べようとしている。 【主】 (発言・振り返り)
まとめ	5. 振り返り	・書いた人の意図を考察して説明などの言葉を読むと、商品のよさがわかると思う。 ・広告には、書いた人の気持ちやメッセージがキャッチコピーや写真に込められているから、そこに気を付けて読んでみたい。	●次に広告を読む時には何に目を付けて読んだらいいかという視点で学びを振り返らせる。

言葉による見方・考え方を働かせている姿  
広告に表現された言葉や写真、イラストなどから、書き手の意図やメッセージがこめられた部分とその表現の効果を明らかにしようとする姿。

(3) 板書計画



(4) 準備物

書画カメラ、付箋

○本時で働かせたい言葉による見方・考え方

広告に表現された言葉や写真、イラストなどから、書き手の意図やメッセージがこめられた部分とその表現の効果を明らかにしようとする。

○主体的・対話的な学習活動を生み出すための工夫

共に協力しながら広告を作ってきたグループで活動させることで、作成時に自分たちがこだわったことや話し合ったことを生かし、再確認できるようにする。

言語活動のモデル